

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1397
施設名	吉祥寺きらめき保育園
施設所在地	武蔵野市吉祥寺南町3-8-15
法人名	公益財団法人武蔵野市子ども協会

1. 活動のテーマ

<テーマ> 巧技台

箱型の運動遊具で、各年齢に合わせた運動機能発達を促すことを目的として活動を行っているが、より子どもが主体的に生き生きと活動をしながらか運動機能を育てるにはどうするとよいか。

<テーマの設定理由>

日々子どもたちの発達に合わせてながら巧技台を設定して組んでいるが、子どもたちにとってその取り組み方や遊び方で合っているのだろうか？その場に設定されているから取り組んでいるような、やらされている感にはなっていないだろうか？どの子ども自ら取り組みたいという意欲を持った活動になり、巧技台活動がよりよい運動機能の向上に繋がるとよいという思いからテーマ設定をした。

2. 活動スケジュール

- ・日々の取り組みの様子から、どの子ども意欲的に活動に参加しているかどうかを見極める。
- ・職員が巧技台の設定の仕方の座学を学び、本当に発達に合った設定になっているか、安全面はどうか、子どもが楽しめそうか、など巧技台について改めて考え、子どもの様子と照らし合わせながら設定する。
- ・巧技台メーカーの運動講師の方に来ていただき、実際に巧技台を組む中で、子どもたちがより子どもが生き生きと運動能力を伸ばせるよう楽しむ。
- ・子どもたちの生き生きした活動を今後につなげる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・巧技台
- ・はしご
- ・マット
- ・ビーム板
- ・のぼり板
- ・ヘルメット型 (5歳児クラスのみ)

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・巧技台を各クラスその年齢の発達や動きに合わせ、のぼり板やビーム板、はしごやマットをランダムに組み設定する。
- ・大人が指示した方向に動いたり一定のルールを伝えたりするのではなく、どこから上ってもどちらの方向から行うことも可能とし、子ども自がの気持ちの赴くまま、自由に動いてよい形で活動に取り組む。
- ・子どもたちの活動の中で巧技台専門講師による指導を受ける。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・子ども自身が自分で立ちながら動く・座りながら動く・ぶら下がる・飛び移る・止まる・交差するなど自由に楽しみ、ぶつかりそうになると互いに声をかけ合ったり、待ったり譲ったりするなど相手を見て自分で判断して言葉をかけ、行動する姿がみられていた。
- ・行いたいところを列で一人ずつ順番に待つことなく、自分のタイミングで自由に自分が好きなように楽しめる分、集中して活動に取り組む様子がみられていた。
- ・以前より大人の声かけや子ども同士のトラブルが減っていた。特にケガも増えることもなかった。
- ・巧技台専門講師からは「こっちも使ってやってみてもいいよ」「ここはこうしてみよう」など指導や組み方アドバイスなどをいただいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・子どもの動きの捉え方が変わり、子どもの力を信じて自由な動きを認められるようになった。
- ・主体性など色々な部分が育ったように感じる。
- ・乳児クラスの子どもたちも”巧技台やりたい”と期待する様子が増えた。
- ・子どもの動きを想定してより自由度の高いものを構成することで、子ども自身が身体の動かし方を考えながら遊んだり”このやり方ならやれるかも”と挑戦意欲を持って取り組んだりしていた。
- ・大人が遊び方を伝えなくても、子どもが自分の力で考え判断して周りとのコミュニケーションも図りながら遊ぶようになった。
- ・リスクを知ってフォローの仕方を学んだことで、子どもの力を最大限信じられるようになった。